

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月1日

【評価実施概要】

事業所番号	0870200367		
法人名	有限会社 銀友		
事業所名	グループホーム 銀友		
所在地	茨城県日立市小木津町1-28-25 (電話) 0294-43-8741		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年1月14日	評価確定日	平成21年3月31日

【情報提供票より】 (平成20年11月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年8月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	8人, 非常勤 2人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	-
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年11月28日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	5	要介護2	1		
要介護3	1	要介護4	2		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 81.5 歳	最低	70 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福島クリニック、日高歯科クリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「自分の親が利用してもよいと思うサービス事業所を作りたい」という思いで、先駆けて開設した事業所である。
 「職員が楽しくなければよい支援はできない」という考えに基づいた支援により、利用者はゆったりとした雰囲気でのコミュニケーションを楽しみながら自由な生活をしている。
 天窓を設け、木をふんだんに取り入れた共用空間は明るく、家庭的な雰囲気を醸し出している。
 家族会、地域、医療機関など多くのサポーターの存在が強みとなっており、地域密着型サービスのあるべき姿を実践している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	生活歴の把握や利用者と一緒に食事を摂ることは改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	管理者や全職員は外部評価の意義や重要性をよく理解し、日常のケアを振り返りながら自己評価を全職員で作成している。 外部評価の結果をサービスの質の向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、感染症情報や外食の回数を増やしてほしいなどの要望等を話し合い、出た意見を踏まえ防火設備として煙探知器の設置やうがいと手洗いの励行、面会者のマスク使用などサービスの質の向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	事業所と家族会の懇親会で共に飲食しながら、意見や要望を自由に出してもらえるよう配慮している。 家族等と一緒にグループホームのあるべき姿を追求している。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域の団体が開催する敬老会に出席するほか、職員と利用者が一緒に事業所周辺を清掃している。 地域ではホームの利用者が1人で外出した場合、地域の人々が利用者へ声をかけてくれたり、何かあればホームに連絡してくれるなど地域全体で見守ってくれる関係を築いている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームのあるべき姿を明確に意識して、「その人らしく」「家庭的な雰囲気」などのキーワードが入った独自の理念を掲げている。	○	地域密着型サービスとして、「地域住民との交流」の観点も含めた理念を全職員で話し合い作成することを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや申し送り時に理念を再確認している。 日々の暮らしのなかで家庭的な雰囲気を重視し、無理強いせずに利用者が自然体でゆったりと暮らせるよう支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の団体が開催する敬老会に出席するほか、職員と利用者が一緒に事業所周辺を清掃している。 地域ではホームの利用者が1人で外出した場合、地域の人々が利用者に声をかけてくれたり、何かあればホームに連絡してくれるなど地域全体で見守ってくれる関係を築いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や全職員は外部評価の意義や重要性をよく理解し、日常のケアを振り返りながら自己評価を全職員で作成している。 外部評価の結果をサービスの質の向上に活かしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、感染症情報や外食の回数を増やしてほしいなどの要望等を話し合い、出た意見を踏まえサービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームのあるべき姿について市に積極的に発信するなど連携し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料は家族がホームに来て支払ってもらうようにしており、その際に暮らしぶりや健康状態などを報告している。 利用者の健康状態など状況に変化があった場合はすぐに電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームと家族会の懇親会で共に飲食しながら、意見や要望を自由に出してもらえるよう配慮している。 家族等と一緒にグループホームのあるべき姿を追求している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	「職員が楽しくなければよい支援はできない」という代表者の考えの基に、職員は楽しい雰囲気づくりに努めている。 止むを得ない理由で離職する場合は全職員で利用者の精神面をフォローしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が段階に応じた研修に参加できるよう勤務時間を調整するなど、職員一人ひとりの研修参加を積極的に支援している。 研修報告書を作成するとともに報告会を行い、研修内容を全職員で共有している。	○	階層別の研修計画を作成し、計画的に人材を育成することを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	茨城県グループホーム協会の理事として、同業者とともにグループホームのあるべき姿を追求している。 職員は研修に参加する場合は同業者との交流に努め、自分たちのケアのあり方を見直す機会としている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの開始にあたり、利用者が事業所を気に入り、サービスを受けようという気持ちになっているかを重視している。 サービス開始までに時間が必要と判断した場合は、お茶のみなどに来訪してもらいながら徐々に馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は自家菜園の種まきから収穫までを利用者に教わりながら共に楽しんでいる。 また、利用者は人生の大先輩との視点を大事にし、様々な知恵を教わろうという姿勢で支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「このままでよい」など利用者の言葉の裏にある本当の思いや意向を普段のコミュニケーションのなかで把握しようと努め、把握した結果をセンター方式シートにまとめて全職員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントにより明らかとなった課題に対して、全職員でカンファレンスを行い介護計画を作成している。 介護計画について、家族に説明するとともに意見を求め同意を得ている。	○	利用者や家族もチームの一員という観点でサービス担当者会議の段階から家族に参加してもらい、意見やアイデアを出してもらえよう働きかけることを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月ごとに実施しているモニタリングや介護計画期間に応じた達成度評価に基づき、課題の優先順位を変更するなど介護計画を見直している。 介護計画期間終了前でも状態に変化が生じた場合はカンファレンスを行い、介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	週1回の定期的な往診のほか、病状に応じて急遽往診してもらうなど医療連携体制を活かして病状の悪化を防いでいる。 通院や外泊に対して送迎支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス利用開始時に、利用者や家族にこれまでのかかりつけ医への継続受診希望を確認している。 事業所の協力医への受診を希望した場合は、かかりつけ医から診療情報提供書を協力医に提供してもらい継続した受診ができるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化における指針」を作成し、全職員で方針を共有している。 終末期は医療機関での看取りとなる方針を「看取りに関する同意書」により家族に説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者との距離を測りながら、一人ひとりの誇りを損ねないよう名前の呼び方などに配慮している。 個人情報保護方針や利用目的を掲示し、個人情報の取り扱いに注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事だけはみんなで一緒にしようと時間を決めていたが、それ以外のスケジュールは決めず、一人ひとりが散歩や趣味など好きなことをして過ごせるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事をしながらコミュニケーションをとり食事を楽しんでいる。 「刺身を食いたい」などの希望に対しては、メニュー変更や外食などにより柔軟に対応している。 利用者の持っている力に応じて、食事準備や後片づけを手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日は決まっているが、突然の入浴希望以外は利用者の希望にそうよう努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	元看護師の利用者が健康チェックの手伝いをするなど、一人ひとりの生活歴を活かした役割を担ってもらうよう支援している。 日々の生活のなかで気づいた利用者の生活歴や思いを記録し全職員で共有している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	売り出しなどのチラシを見て利用者と近くのスーパーに食材の買い物に出かけている。 散歩など、いつでも自由に外出ができるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることは身体拘束であるとの認識でケアに取り組んでいる。 利用者が1人で外出した場合は、地域の方が利用者に声をかけるとともに事業所に連絡してくれるなど、地域の見守り支援を得て鍵をかけない支援に取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得た避難訓練のほか、消防OBボランティアの協力を得て消防訓練を実施している。 災害時に地域の協力が得られるよう地域との関係づくりに努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取の重要性を認識し、利用者全員の食事量や水分摂取量を記録している。 市が主催する栄養研修会に参加し、栄養バランスなどをチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木をふんだんに使用した共用空間は天窓からの光で明るく、利用者がゆったりと生活できるよう工夫している。 掲示物や華美な飾りつけを最小限にとどめる一方、習字などの作品を掲示し、利用者の生活を優先的に考えた空間づくりに努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に利用者が使い慣れたテレビ、箆笥、洋服がけ、家族の写真、腰掛などが持ち込まれ、利用者が安心して暮らせるよう支援している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。